

半促成長期どり栽培アスパラガスにおけるカンザワハダニの発生活長と薬剤に対する感受性					
<p>〔要約〕アスパラガスにおけるカンザワハダニの発生は、7～9月に最も多くなる。本虫の薬剤に対する感受性を検定したところ、<u>ミルベメクチン</u>に対しては感受性が高い。一方、<u>クロルフェナピル</u>に対して感受性の低いほ場がある。</p>					
佐賀県農業試験研究センター 環境農業部・病害虫・有機農業研究担当			連絡先	0952-45-8808 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	野菜	専門	病害虫	対象	アスパラガス

【背景・ねらい】

近年、半促成長期どりアスパラガスほ場ではハダニ類の発生が多く、擬葉が黄変して、落葉する等の被害が問題となっている。本虫を効率的に防除するためには、発生時期、ならびに薬剤に対する感受性を把握する必要がある。2016年にアスパラガスほ場で採集したハダニ類4個体群は、すべてカンザワハダニであったことから、本種の発生活長と薬剤に対する感受性を明らかにする。

【成果の内容】

1. アスパラガスほ場におけるカンザワハダニの発生は、6、7月頃から漸増し始め、7～9月にかけて最も多くなる（表1）。
2. 2016年に現地のアスパラガス6ほ場から採集したカンザワハダニについて薬剤感受性検定を実施したところ、ミルベメクチン（コロマイト乳剤）に対しては、すべてのほ場で感受性が高い（表2）。
3. クロルフェナピル（コテツフロアブル）に対しては、6ほ場中2ほ場において補正死亡率80%未満であり、感受性の低いほ場がある（表2）。

【成果の活用面・留意点】

1. 採集したハダニは、カンザワハダニであり、常用濃度の1/3希釈薬液で卵の感受性を検定している。
2. 感受性は補正死亡率で判定し、補正死亡率80%以上で「感受性が高い」、80%未満で「感受性が低い」とした。
3. ハダニ類の被害は日焼け症状と混同されやすい。ほ場におけるハダニ類の発生状況を把握するために、白色板上で擬葉を叩き、発生の有無を確認する。発生が認められた場合は、早急に防除を実施する。
4. 薬剤感受性にはほ場間差があるので、ほ場毎に散布歴や防除効果を把握しておき、コロマイト乳剤またはコテツフロアブルのいずれかを選択する。

[具体的なデータ]

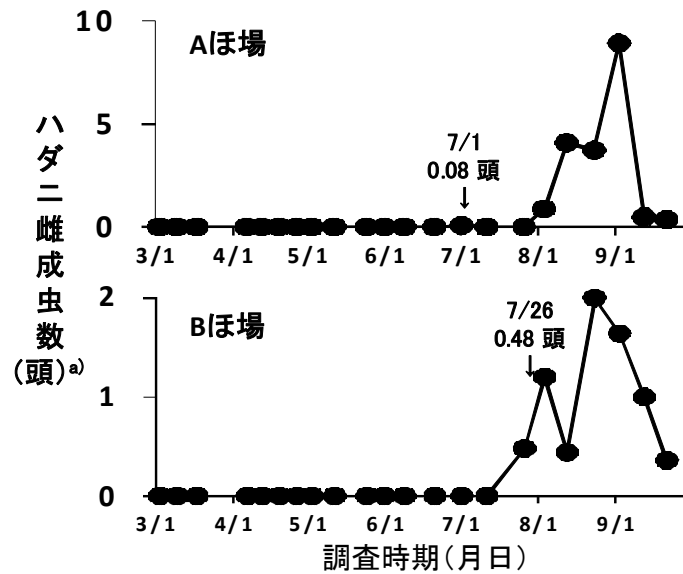


図1 半促成長期どり栽培アスパラガスにおけるカンザワハダニの発生推移(2016年). 調査地:佐賀市川副町現地ほ場. 品種:ウエルカム(Aほ場13年株、Bほ場15年株). 病害虫防除・肥培管理:現地慣行. a)擬葉下にプラスチック板(30cm×20cm)を置き、同擬葉を3回払い落として、板上に落下した雌成虫数. ↓:初確認日を示す

表2 半促成長期どり栽培アスパラガスで採集したカンザワハダニの薬剤に対する感受性(2016年)^{a)}

採集地点	採集時期	補正死亡率(%)	
		ミルベメクチン ^{b)} (コロマイト乳剤)	クロルフェナピル (コテツフロアブル)
		3000倍	6000倍
佐賀市①	9/30	99	100
佐賀市②	9/30	100	54
佐賀市③	10/14	100	100
佐賀市④	10/14	100	99
佐賀市⑤	11/8	100	4
神崎市①	11/8	100	100

a)リーフディッピング法により常用濃度の1/3希釈薬液で検定. 補正死亡率80%未満の場合は感受性が低いと判定し、網掛けした.
b)有効成分名(商品名)/希釈倍数.

[その他]

研究課題名:土着天敵「タバコカスミカメ」等を利用した野菜類害虫に対する防除技術の確立
 予算区分:国 庫
 研究期間:平成28~31年度
 研究担当者:衛藤友紀